

[総合的な学習の時間]

総合学習を核にした他領域（教科学習・「ふれあい」¹⁾）との
関連に関する一考察

- 3年生「発見！高田の【た】【く】【み】大作戦」の実践から -

藤本 高雄*

1 はじめに

(1) 問題の所在

総合的な学習の時間は、「自ら学び自ら考える学習」の象徴として平成14年度より完全実施され、多くの学校において、創意工夫をされた実践が行われている。

しかし、中央教育審議会部会の「審議経過報告」（平成18年2月）では、「基礎的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）」と、「自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる探究型の教育）」を二者択一的に捉えることなく、両者を総合的に育成するために、両者の間に「知識・技能を活用する教育（活用型の教育）」を位置付けることが提起された。現行学習指導要領では、改訂のねらいとして「自ら学び考える力の育成」と「基礎基本の確実な定着」が掲げられているが、今回、両者を総合的に捉える必要があると指摘しているのは、これらがともすれば「あれかこれか」というように対立的に捉えがちだったことへの反省があるものと考えられる。

(2) 本校の取組から

これまでの実践においても、教科等で学んだ知を総合的に再構築し（知の総合化）、それを実生活に生かそうとする試み（知の活用・実践化）は、多くの学校で取り組まれている。総合的な学習の時間を核に教育課程をつくってきた本校もその一つといえる。

本校は、30年以上「総合的な学習」を中核とした研究に取り組んでいる。平成14年度からは、「生活科」「総合的な学習の時間」の学びのよさを各教科や道徳及び特別活動の学習に生かした指導方法や指導体制の改善を行うことで確かな学力を育ててきた。その中で、「総合的な学習の時間」を中核とした教育課程を編成・実施することで、子どもの中に教科・領域横断的に育まれていく資質・能力があることが明らかにされた。²⁾

平成18年度からは、先の研究で明らかにされた教科・領域横断的に育まれる資質・能力を「創造的探求心」「情報活用能力」「コミュニケーション能力」「内省的思考力」「共生的な態度」の5つと捉え、教育課程を編成している。³⁾

教科・領域横断的に育まれる資質・能力をいかに子どもたちに培うかを考えたとき、総合学習と各領域を意図的に関連させていくことが大切になる。これまで、[内容] [学び方] [学習材 (対象)] という観点で関連を図ってきたことに加え、「習得型の教育」「探究型の教育」「活用型の教育」という学習スタイルを添えると、子どもたちの学びが充実し、資質・能力が高まっていくのではないかと考えた。本実践では、学習スタイルを関連の視点に加えて総合学習の学びを創ることを通し、領域間の関連の在り方を探っていききたい。

1) 大手町小学校は、平成18年度から文部科学省指定研究開発学校となり、「道徳」と「特別活動」を統合した『ふれあい』、『総合学習』、『教科学習』の3領域編成による教育課程の研究開発に取り組んでいる。

2) 大手町小学校『未来力』（2005）

3) 大手町小学校『人間力』（2007）の中で子どもたちに培いたい資質・能力を以下のような5つであると説明している。

創造的探求心：物事を多面的に捉えたり、自分の見方や考え方を広げたりしながら、めあてに向かって粘り強く努力しようとする力

情報活用能力：これまでの体験や学び、多様な情報の中から自分が必要なものを選び、自分の考えや生活に生かそうとする力

コミュニケーション能力：自分の考えを分かりやすく伝えたり、相手のことを考えて話を聞いたりしながら進んで他者とかわらうとする力

内省的思考力：これまでの自分を振り返り、より確かな考えをもったり、自分の成長を確かめたりするとともに、自分の思いや願いを見つめ、これからの在り方を考えようとする力

共生的な態度：他者の考えを受け入れ、自分と他者の考えの相違点を認め、よりよく生活していくために共に生きていこうとする態度

2 研究の目的と方法

習得型・活用法・探究型という学習スタイルを踏まえながら領域横断型の大単元を構想し、意図的に「総合学習」と「教科学習」や「ふれあい」を関連させた活動展開を構成していき、子どもたちの学びの様相を分析していく。そして、そのことから、子どもたちの「資質・能力」を高めていくための領域間の関連の在り方について考察していく。

3 実践の構想

(1) 活動構想

3年生の総合学習は、「高田のまちに繰り返しかかわることを通し、高田のまちのよさを感じ取り、高田のまちへの思いを深めていく」ことをねらい、他領域（教科学習・ふれあい）と関連させた「大単元」を構想し、子どもの対象へのかかわりをより多くの角度からアプローチできるように展開する。具体的には、1学期は「高田公園PR大作戦」、2学期～3学期は「本町PR大作戦」の中で領域の関連を図るようにしていく。

(2) 総合学習の年間構想

〈発見！高田の【た】【く】【み】大作戦〉 1年間の活動の概要 大手町小：3年生「ゆめ学年」

1 学期	2 学期	3 学期
《高田公園PR大作戦》 ～発見！高田の【た】のしいところ～	《本町PR大作戦》 ～発見！高田の【く】らしと【み】りよく～	～発信！高田の【く】らしと【み】りよく～
◇高田公園探検 ◇高田公園まんきつ体験 ◇高田公園調査活動 ◇高田公園PR作戦 ・サンバ上越市民の歌 ・高田公園ゆめパンフレット 〔サマーフェスティバル〕 〔上越祭り：民謡流し〕	◇本町探検 ◇本町・名物まんきつ活動 ・名物食べ歩き ・名物作りに挑戦 ◇名物調査活動 ・工場見学 ・個人調査活動 ◇花ロード作戦 〔本町花ロード祭り〕	◇本町PR活動① ・名物ガイドブック ・本町ゆめパンフレット ◇本町PR活動② ・ちらし作戦 ・名物新聞 ・PR大作戦 〔お別れ発表会〕 〔PR作戦in本町〕
【没頭】→【追求】→【自己表出】	【没頭】→【追求】→【自己表出】	

◇上記の総合学習の年間活動計画をもとに、〔内容〕〔学び方〕〔学習材（対象）〕という観点と「習得」「活用」「探究」という学習スタイルを踏まえ「大単元」を構想していく。

4 実践の実際「本町PR大作戦」

〈社会科見学〉（7月）
◇上越の名物、名産品調査
→上越物産センター

〈高田のくらしとみりよくまんきつ活動〉

◇上越祭り参加（7月）
◇花ロード参加（ふれあいと関連）
◇本町探検①②←かわらせんべいを味わう。
◇ゆめ会議（情報交換）←笹あめを味わう。

◇高田の名物まんきつ活動①
 ・自分で食べたい名物を買ってきて味わう。
 ・市長賞の賞品券で「米久コロッケ」と「お

本町PR大作戦は「高田のくらしとみりよくまんきつ活動」として「本町探検：名物さがし」から始めた。探検で分かったことから一番友達に教えたいことを発表し合いマップにまとめたり、「かわらせんべいや笹あめ」などを食べたりした。

その後、花ロードに向けての準備を進めた。本町探検や花ロード参加（市長賞）で、本町への関心を高めていった子どもたちに対し、次に名物をたっぷりと味わう活動を設定した。

まずは、思い思いに気になる名物を買って食べた。子どもたちは、本町にはどのような名物があり、それがどのようなものなのかというような問題意識をもちながら名物を味わっていった。そして、自分で味わったり、友達が味わっている様子を見たりしたことで、自分なりのこだわり（お気に入り）の名物を見出している様子が見られた。

その後、共通体験として社会科と関連させた「かまぼこ工場の見学」や「川渡りもち作り」を体験した。ここでは、名物を作ったり

きなあめ」を買って味わう。

◇高田の名物まんきつ活動②

- ・かまぼこ工場の見学をする。
(社会科と関連)
- ・できたてのかまぼこを味わう。

◇高田の名物まんきつ活動③

- ・高田の名物「川渡りもち」をみんなで作って味わう。

→「川渡りもちの作り方の説明書を書こう」
(国語「説明書を作ろう」と関連)



〈高田の「くらしとみりよく」調査大作戦〉

- ・自分で調べたい名物を決め調査する。
- ・調査した内容を「名物ガイドブック」にまとめる。

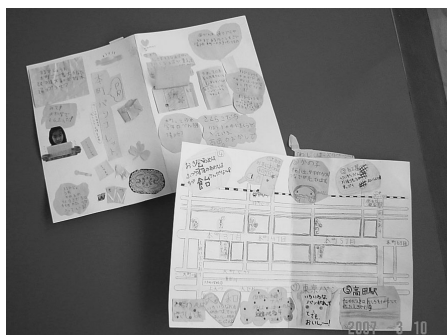
(国語「食べ物はかせになろう」と関連)

〈本町PR作戦〉

～本町PR活動①～

◇本町・名物ゆめパンフレット作成

- ・PRしたい名物をパンフレットにまとめる



～本町PR活動②～

◇研究会ちらし作戦 (図工と関連)

- ・お店のちらしを作り, 研究会で配布
～研究会に来た人に伝える～

◇名物新聞作戦

- ・名物を新聞にまとめ, 文集に掲載
～家族・友達に伝える～

◇本町PR大作戦

- ①おわかれ発表会(ふれあい・音楽と関連)
～在校生・家族に伝える～

売ったりしている人と売り場でかかわるだけでなく、実際に作っている様子を見たり、教わりながら作ったりした。その活動では、問題意識をもちながら意欲的に取り組む中で、名物を作ったり大切にしたりしている方々の思いを感じ取ることができた。

12月に入り、それまでの体験活動を生かし、それぞれに追求活動に取り組んだ。ここでは、一人一人が調べたい名物を決め、課題意識をもちながら積極的に取材活動をし、国語と関連させて「名物ガイドブック」を書き上げた。

～知識・技能を活用する子どもの姿～

- ◇1学期の総合学習の調査活動(学び方)を生かして、本町の調査を進め、まとめる姿。

3学期は「本町や名物のよさを伝えること」を活動のねらいとして進めていった。

まずは、これまでの活動を振り返り、一人一人が「本町・名物ゆめパンフレット」を作成した。ここでは国語と関連させながら「2学期の本町探検」の中で分かったことから、自分でPRしたい内容を選びまとめた。

～知識・技能を活用する子どもの姿～

- ◇「社会科見学」「本町探検」「まんきつ活動」「調査大作戦」で得た情報をもとに、国語の「説明書を作ろう」「食べものはかせになろう」、1学期の「高田公園PR大作戦」における学びを生かして、「本町・名物ゆめパンフレット」を作成する姿。

次に、実際にPR活動②として様々なPR活動に取り組むようにした。ここでは、子どもの発想を生かしながら、これまでの学びを生かした「名物新聞」や図工と関連させた「研究会ちらし作戦」等、多様な伝える場面を設定していった。ここでは、一人一人の本町・名物への思いが深まっていく様子が見られた。

最終的に、子どもたちは「もっと本町のよさをPRしたい」という強い願いをもち、「ふれあい」の行事として位置付けられている「お別れ発表会」や「本町PR大作戦in雁木通りプラザ」の実現に向けて主体的に活動に取り組んだ。

学年全体として「活動に対する願いや思い」が共有されたことにより、「本町PR大作戦」は学年みんなの願いや思いが伝わるような活動として展開された。

～自ら考え探究していく子どもの姿～

- ◇「高田公園PR作戦」や「本町・名物ゆめパンフレット作

②本町PR大作戦in雁木通りプラザ
～本町の人・地域の人に伝える～

成」の学びを生かしながら「教科学習」や「ふれあい」の学びと一体化して「本町PR大作戦」に取り組む姿。

5 考察

(1) 子どもに培われたもの(資質・能力)

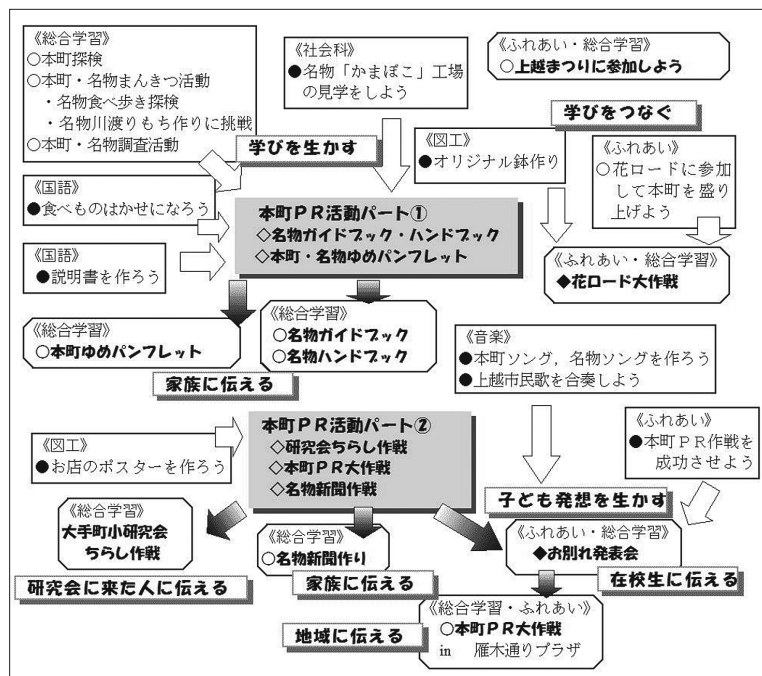
子どもは、本実践の中で、様々な資質・能力を発揮して学んでいたと言える。年間の活動を終えて、子どもに培われたものを整理すると以下のようなになる。

- ・高田公園探検や本町探検で見いだした内容を、PRしたいという目的をもって活動に取り組んでいこうとする力。【創造的探求心】
- ・自分でPRしたい内容を選んで、「マップ」や「パンフレット」にまとめていく力。【情報活用能力】
- ・高田公園や本町商店街の方とのかかわりを通し、その方々の思いを感じ取っていく力。【コミュニケーション能力】
- ・一人一人が見いだした内容を共有し、そのよさを認め合いながら活動していく態度。【共生的な態度】
- ・活動を通して高田公園や本町への感心を高めたり、思いを深めたりしていく力。【内省的思考力】

(2) 領域を関連させること

領域を関連させることで、活動が発展し、子どもの学びが充実していったと考える。最終的には子どもたちの願いが実現し、本町の雁木通りプラザで「本町PR大作戦」を行った。本活動の集大成として行った「本町PR大作戦」の発表の内容やオリジナルの歌詞の中に、資質・能力の発揮によって子どもの中に培われた「調査して分かった知識」や「本町への思い」が つづられている。また、様々な方々から、本活動に対して高い評価をいただいた。

<2学期～3学期：「本町PR大作戦」における他領域との関連の実際>



～本町PR大作戦in雁木通りプラザ～
JCV (上越ケーブルビジョン)
「くびぎ野みんなのTV」で放送

※保護者が「PR作戦に向けて準備を進めている子どもたち」や「PR作戦当日」の様子を取材し、編集してドキュメントとしてまとめてくれた。

〔P R 作戦の内容〕

3 年生発表『本町P R 大作戦』

◇オープニング

◇名物アラカルト

・名物紹介

「おきなあめ」「ささだんご」

「ささあめ」「かわたりもち」

「かくまき」

・名物ソングメドレー

「コロッケマーチ」

「する天ダンス」

「かわらせんべいソング」

◇サンバ上越市民の歌

～本町バージョン～

・歌 ・合奏 ・ダンス

◇ゆめいっぱいフラワーカーニバル

・パフォーマンス

◇フィナーレ「本町いいところソング」

本町いいところソング（ゆめオリジナル）

- 一 本町 本町 いいところ 本町 本町 いいところ
名物たくさん 親切いっぱい いいところ
あっちいこうか こっちいこうか まよっちゃう
すてきなお店 いっぱい
- 二 本町 本町 いいところ 本町 本町 いいところ
楽しいイベント いっぱいあるよ 行ってみたいな
あっちいこうか こっちいこうか まよっちゃう
すてきなイベント いっぱい
- 三 本町 本町 いいところ 本町 本町 いいところ
笑顔がすてき 優しい人たち 行ってみたいな
あっちいこうか こっちいこうか まよっちゃう
すてきな人たち いっぱい

コロッケマーチ（ゆめオリジナル）

みんなが大好きコロッケは、本町・本町で買ひましよう
ソースをかければ最高だ ほくたち コロッケ大好きです
本町4丁目オリジナル 本町コロッケ ワンダフル
油はラードを使ってる ジャがいも北海道のきたあかり
肉は少なめ 秘密なんだけど かくし味は 塩・コショウ
本町コロッケ おぼえてね 本町コロッケナンバー1

〔様々な方からの反響から〕※子どもたちの取組（姿）について高い評価をいただいた。この評価から、子どもたちが、5つの資質・能力を十分に発揮しながら学んでいたことが分かる。

〈研究会にいられた静岡県の教師〉

3年生の本町通りのチラシを見て、そのお店に行ってみたくになりました。（研究会ちょっと抜け出してしまいました）米久や栄喜堂、かの子なども見て回り、ついでのでおみやげを買おうと思い、「かの子」に入り、お店の方に小学生のことを聞いてみました。「子どもたちが本当に熱心に聞くんですよ」というお話を聞き、本校のやられている教育の方向に間違いはないのだなと思いました。

〈保護者〉

「本町名物P R 作戦」のおかげで、ずい分、お店の名物が詳しくなったようで、一人で買い物に行きました。栄喜堂、かの子、米久、大山菓子店と回ってきたそうです。栄喜堂、米久では代金を少しまけてもらい大山菓子店では、お菓子をいただけてきました。それぞれのお店の名物を買ってきたことには驚かされました。お店の方にもよくしてもらい、本町P R 作戦は大成功だと感じました。

〈JCV（上越ケーブルビジョン）での試写会での感想〉

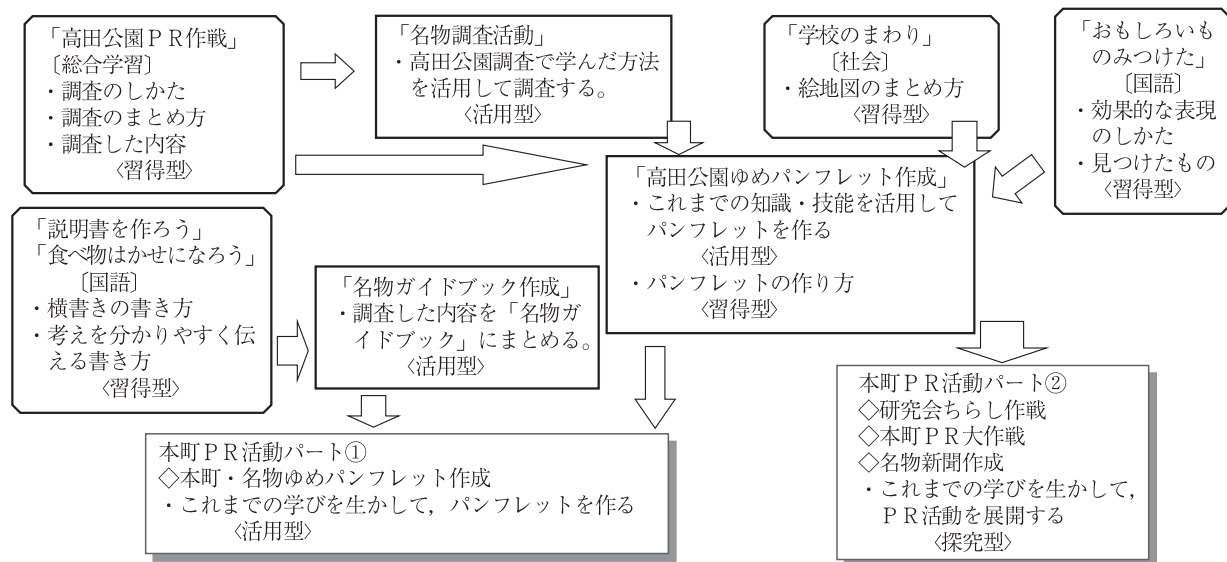
- ・ビデオを撮らずにいらなかった気持ちが本当に出ていた。
- ・本当に感動しました。涙が出ました。活性化協議会の会議ばかりやっている大人に見せてあげたいです。地域のことを考える本質が十分に撮影されていました。
- ・すばらしい一言です。子どもたちの地元（本町）をこの作品を通じて愛してくれるといいですね。それと、この作品を見た上越の人が、だんだんシャッター街になっている本町に足を運んでくれればいいですね。本町の人も、もっと子どもたちみたいがんばってください。
- ・歌に元気があってよかった。商店街の活性化に寄与する姿勢が良い。本町で買い物しましょう。商店主など喜んでいたのでよかった。
- ・ダンスのとき、後ろで一緒に踊っている子どもたちがよかったなあ。主役はなく、みんなで作ったんだね。

領域を関連させることで、子どもの学びが広がり、深まることが子どもの姿から確認された。本実践では、結果的に保護者や地域まで巻き込む形にまで発展させることができた。様々な方々からの反響で分かるように、子どもたちの取組が周りの人から高く評価されたことは、子どもたちにとって大きな自信となった。領域を関連させるよさを整理すると次のようである。

- ・活動がダイナミックになる。地域や家族を巻き込む展開が可能となり、子どもたちの【資質・能力】の発揮の場が増え、子どもたちの「もっと～したい」という思いが高まる。(学びの原動力)
- ・総合学習はもちろん、教科学習やふれあいにおける活動の意味付けがされることで、それぞれにおける学びの質が高まる。(学びの相乗効果)
- ・活動時間が保障されることで、子ども一人一人の思いを十分にくみとり、生かすことができる。(学びの成立)

(3) 習得型・活用型・探究型という学習スタイルを生かして領域横断型の単元を構想すること

本実践では、領域を関連させるに当たって、[内容] [学び方] [学習材 (対象)] という観点から単元を構想するにとどまらず、習得型・活用型・探究型という学習スタイルを生かしていった。「本町PR大作戦」における関連についての一例を学習スタイルという視点から整理してみる。



このように、それぞれの関連を学習スタイルを踏まえながら関連付けて活動構成してみると、どの活動（時間）にどのような学びを目指していけばよいか明確になると同時に、そこでの学びがどこで生かされるかを意識して活動させていくことができる。本実践における子どもが「知識・技能を活用する姿」や「自ら考え探究していく姿」を見せていたことから、「学習スタイルを踏まえた関連」が領域間の関連を図る際の手がかりの一つになりうる。

6 終わりに

これまで、総合的な学習の時間と他領域の関連というと、[内容] [学び方] [学習材 (対象)] という観点からの関連を考えていた。関連させることで、ダイナミックな活動が展開でき、子どもたちも生き生きと取り組む姿を引き出すことは可能であった。しかし、それぞれの活動（時間）のねらいがあいまいであったり、活動がダイナミックになるだけで、子どもたちにどのような資質・能力が育ったかという点では、関連のよさや効果を確認できなかった。

今回、新たに、習得型・活用型・探究型という学習スタイルをその観点に添えたことで、一つ一つの活動（授業）のねらいが明確になり、その結果として単元全体として子どもの資質・能力を確実に高めていけることが分かった。今後も、習得型・活用型・探究型という学習スタイルについての理解をさらに深め、より効果的な関連の在り方を探っていきたい。

〈参考文献〉

- 佐藤真編集 教育開発研究所『体験学習・体験活動の効果的な進め方』
教育調査研究所『教育展望 臨時増刊No.38 改革の時代に答える教育Ⅰ』